

【研究会テーマの趣旨】

富山県の土砂災害については、2007年9月28日から、富山気象台と富山県が連携して土砂災害警戒情報を出し、必要があれば住民に対して、避難指示や避難勧告を出している。

これに対して、2008年2月には、伏木富山港で寄り回り波が侵入中に漁船が出港し、乗組員が海に転落して死亡しているが、これらの事故は全て船長の責任となっている。また、黒部川河口の芦崎地区では越波した波により住宅が流されたりして一人死亡しているが、事前に、避難勧告等が出されたという話は聞いていない。

そして、商船系船舶の災害では、2004年10月に帆船海王丸が富山港検疫錨地で走錨・座礁、2017年10月には富山港で貨物船の漂流・座礁等が発生している。また、富山新港内に係留中の富山高等専門学校の練習船「若潮丸」も、2008年2月（寄り回り波）で係留索を切断、2009年10月（台風）には外板の亀裂や船体フレームの歪み等の波による被害を受けている。さらに、実習艇「さざなみ」（15トン）も2017年10月（台風）に波により破損して使用できなくなっている。

そこで、港湾や沿岸域における波浪災害を防止するために、富山地方気象台、伏木海上保安部、北陸電力（株）、富山県土木部港湾課の担当者及び富山高等専門学校練習船船長に、波浪予報の現状、波浪による海難の現状、波浪災害防止の取組み等について紹介して頂き、波浪災害防止のために必要な対策やシステムについて考えることが本研究会の趣旨である。

日本航海学会 航法システム研究会長
富山高等専門学校 商船学科
河合 雅司